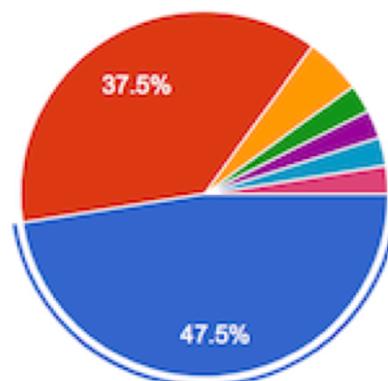


## 情報システム学会アンケート調査結果

情報システム学会 研究普及委員会

### 1. 回答者の属性（回答数：40）

■大学などの教育機関	19
■企業	15
■個人事業主	2
■社会保険労務士事務所	1
■高等学校教員	1
■定年退職者	1
■無職	1



### 2. 情報の分野において興味や関心があるトピックスやキーワード（複数回答可） （回答数：42）

キーワード	件数
情報システムプロデューサ	24
Digital Transformation	19
働き方改革	18
Sharing Economy	14
Subscription Business	6

#### その他（自由記述）

- ひとり情シス
- AI と生活
- システムの安定性
- システム開発とコミュニケーション
- 情報システム開発と公共政策
- 人間中心情報システムや教育、社会学、認知科学、哲学倫理
- 情報システム分野の人材育成や人材の評価
- 知識創造理論

- 情報システムの開発と運用
- 日本型（日本の文化に適した）情報システム
- 基礎情報学
- AI に関する危機管理

### 3. 情報システムが貢献できそうな社会問題等（複数回答可）（回答数：43）

キーワード	件数
自動運転・安全性向上	28
農業など情報システム化が遅れている分野への適用	27
機械化・自動化により不要となる仕事	27
少子高齢化	26
外国人旅行者の増大	13
長期化する年金問題	13
外国人労働者の受入	10
難民問題	6

#### その他（自由記述）

- 自閉症者、ろう者、盲者への支援
- エネルギーや食料の安全保障
- 製造業における品質管理
- 経済活動の効率化
- 小中高生の虐め自殺、独居死、DV など社会問題の解決
- 身障者の活躍、地域活性化
- 教育によりコミュニケーションの正しい理解を浸透させ、正しい理解からその向上を図る。
- メンタルヘルス、やりがいを高めるプログラム
- 何れの社会問題も情報システムと密接な関係にあり、「どんな情報を」「どんな形で」「誰に」「いつ提供する」のが有効かを解くことだと思います。
- AI ,Big Data に関する危機管理

### 4. 情報システム化により問題が解決した事例として、気になる企業や事例があれば、記入してください。（自由記述）（回答数：12）

- e コマースや e ラーニング、電子政府等、様々な取り組みで解決されてきた問題は数多くあると思います。
- NTT データビズインテグラル
- Bosh(G) By SAP Leonard

- ソースネクスト社の50ヶ国対応翻訳機 ・ 過疎地の買い物難民対応サービス ・ 自動車安全運転支援
- 国境の壁を低く、交流をしやすくした。
- 中小企業でクラウドを有効活用すると今までにない投資効果が期待できる
- 日本の企業での事例は分からないのですが、エネルギーの自給・自立ではドイツや北欧諸国が着々と目処を付けていると思われ、参考になるのではと考えます。
- フィンテック
- NTTデータ イントラマート
- SUICA、宅急便の集荷システム
- ライフネット、ネット証券、ネット販売など

## 5. 情報関連の人材育成に関して、難しいと感じていることがあれば記入してください。(自由記述) (回答数：30)

- 人材の評価をどうするか。また、高校と大学、大学と産業界の連携をうまく進めること。
- 抽象化能力 情報システムモデルが構築できる人材育成
- ソフトウェア技術者は、経済・社会にとって非常に重要な役割を担う人材であるにもかかわらず、日本では付加価値の低い仕事や待遇に置かれる場合が多く、魅力ある職業になっていないのが問題であると感じている。
- 若者はスマホを上手く使いこなすが、PCは苦手である。ゲームは好きだが、コンピュータは嫌いである。そのように矛盾した指向を持っている点、まず教育に障壁となっている。
- テクノロジーの拡がりとスピード。拡がりについてはどこに狙いを定めて教育すべきかを見極める難しさ。
- 情報システムのコアな仕事現場に対する悪いレッテル。教育体系の不整備
- IT技術者の社会的評価が米国と比べて低いため、若者がIT技術者になりたがらない。このためIT教育やITに関心を持たない。
- 育成として「仕事の責任」「論理性」「チームワーク」「コミュニケーション能力」を身につける。仕事の責任、納期に間に合わせる。間に合わない場合は報告相談をしっかりと行う。論理性、論理的矛盾が発生していても知らん顔ではまずい。チームワーク、自分本位、他人のことは考えないではまずい。コミュニケーションがとれない。隣にいるのにメールでやり取りしている。等書ききれませんが、もっと、仕事を行うで社会人として基本的な動作をみにつける。重要な育成テーマとして「決断力」を身につける。仕様の決まっていないシステムを作らせたり、納期のことを考えずに仕様変更を繰り返し現場の末端が疲弊してもお構いなしに仕様変更を行うなど、「自分の責任」でシステム開発が遅れていることに気がつかない。このようなことが無いようにするために、システム開発での「決断力」を身につける。「仕事の責任」「論理性」「チームワーク」「コミュニケーション能力」を普段からしっかりと行っていないとできません。上流工程ではシステムだけでなく会社経営についての知識が必要です。戦略マーケティング、財務、人事とその業界を取り巻く環境を理解していないと会話になりません。どこの会社でも同じことが言えるので一度身につくと仕事が楽になると思います。自分の得意分野を身につけることも大切だと思います。(自己分析能力)
- 話す力、聴く力、コミュニケーション能力の向上を図ること
- 子供に対するゲーム以外の情報システムへの関心向上

- 情報工学的内容が幅を利かせており、情報の社会的な側面が軽視されている。そのため、社会とのつながりを欠いた認識が蔓延し、これを是正すること。
- 社会の問題と業界に集まる人材のミスマッチ
- 経営者層からの評価が低いままである。一方、専門知識を企業経営者にうまく説明できないSEも多い。
- 人間の知識・経験をどの様にして他の人に伝えるか、その内容が時代の変化の中で普遍化・常識化させるにはどうすべきか。
- 人間の知識を能力に高めて行くには、何が必要か。
- 個人のポテンシャルと組織の総合力との関係は？
- 企画力、広い視野、設計能力、改革への執念などをどう育成するか。
- 開発の場数不足、適切な指導者の確保
- 企業間の人材移動が少ない（特に優秀人材）
- 大人世代の情報システムへの認識が旧態依然としているのが、根本的な問題ではないでしょうか？経営層や指導層がいつまで経っても情報システムや IT は分からないと平気で言う 自動車もエンジンがなくなりいよいよ情報システムの勝負になっているのに、まだ危機意識が乏しい 学生のリテラシーを高めても、就職先で生かせるのか、疑問に思ってしまう
- 教育そのものに理解がない
- これから本当に必要となる人材の育成方法がまだきちんと体系化されていない。
- 抽象化能力の育成
- 概念思考が弱い。
- 哲学的情報リテラシーの拡大
- 教育や人材育成は重要だが、取り組みに対する評価が確立されておらず、これからキャリアアップを目指す若手に協力を要請しづらい。
- 業務理解、深い洞察力と数学的思考によるシステム化提案、意見対立の調整力
- 新技術への対応（カリキュラムの改変）、ユーザ企業（含む官公庁）でのプロデュース人材（CIOを補佐する立場）の育成または人材マッチング
- 人材育成の課題は、もっとシステミックに捉えることが必要ではないだろうか。
- COBOL 教育（いまだに基幹システムで使われている）
- 人材育成の前に、人材獲得ができない

6. 会員へのサービスとして情報システム学会に期待することがあれば記入してください。（自由記述）（回答数：15）

- このアンケートの選択肢にも表れているが、本学会では新境地を拓く気概のためか、独自性の強い視点や語を用いる傾向が感じられる。それは良いのだが、新規入会を考える人には障壁とならないか危惧する。
- SDGs や、Society5.0 との統合的見解による提言
- 情報システム化により社会問題が解決した事例の紹介や解説、会員への人材募集
- 基礎情報学に則った研究の紹介

- 資格試験に対応した講座など
- 会員応募制の研究開発予算措置
- 動員力を高める会の運営を期待したい
- 1. フィンテックなど新しい分野に関する研究会や講演会の実施 2. 小学校から高校までの先生方への教科「情報」のセミナーの実施
- MENDELyのようなMS-WORDの参考文献プラグインの提供
- オンラインセミナー
- オンラインで参加できるコミュニティ（Facebook, twitter, Line など）があると、在京以外の方も参加しやすいと思います。
- 学会を活性化するために、会員の有無に拘らず、若い人たちがISSJ学会誌に投稿できるようなサービスを考えられないだろうか。採録されてから入会を勧めるのも一方法かと思うが如何・・・
- TV, newsなどのメディアにもっと会長を露出させてください

6. 現在、情報システムに関連して困っていることや学会員と情報共有したいことがあれば記入してください。(自由記述) (回答数：2)

- モデリング手法
- 会社を伸ばすためには、人材確保の面で協力願いたい

7. 情報システムに関連したテーマについて学会員と議論する場として、貴社の会議室等をお借りすることは可能でしょうか？ 賛助会員以外の貴社の社員も議論に参加したり、ゲストスピーカーの講演を聞くことができる特典を検討しております。(回答数：8)

はい	3
いいえ	5

その他 (自由記述)

- 10名ほどしか入れません
- ウィークデイの10時-17時まで